

# 小学生をやる気にさせる方法

2016年10月21日

花まる学習会・スクールFC 松島 伸浩

## 1 やる気の正体。

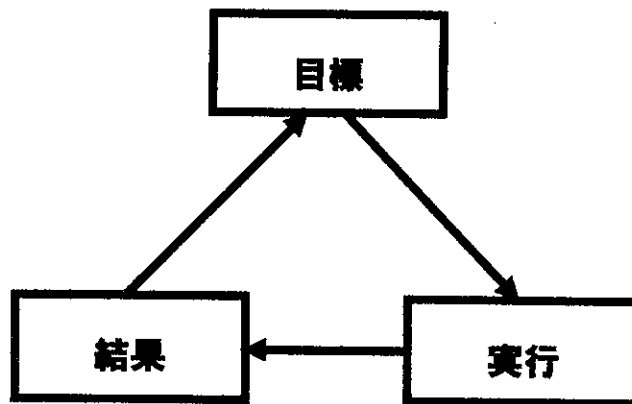
(1) 「やる気がある」って、どういう状態のこと？

- ①もくもくと取り組んでいる。
- ②自分の意思でやっている。自立している。
- ③ちょっとくらい失敗してもあきらめない。
- ④継続してやっている。
- ⑤どこかで楽しんでいる。

(2) やる気が見えない子はやる気がないのか。

- ①やる気の対象を勉強以外にして考えてみる。
- ②興味、関心は変わっていくもの。親の役割はあきらめずにやる気を引き出してあげること。

(3) やる気の仕組み。



(4) どうしてやる気が出ないのか。

- ①自信がない。成功体験が少ない。
- ②基礎的な知識、技術が不足している。わからないからやる気が出ない。
  - ・計算力・漢字力を磨いておけば何とかなる。
  - ・計算は正確さとスピード。
  - ・漢字は部首、意味も大事。覚える力と考える力をサポートする。
  - ・漢字を知っている子ほどよく辞書を引く理由。
- ③勉強のやり方を知らない。自学の基礎。多くの子がつまづくところ。
  - ・ノートの作り方、使い方。
  - ・わからないことの調べ方。タブレット、電子辞書は使ってもいいのか。地図、図鑑はリビングに。
- ④お膳立てが整っている。やらされている。
  - ・やらされている子とは。
- ⑤目標が具体的に定まっていない。またはイメージできていない。
  - ・「勉強はなんのためにやるの？」にどう答えますか。

## 2 やる気を引き出すために家庭でできること。

### (1) 目標を立てる。

- ①なぜ旅行の計画を作る時にワクワクするのか。
- ②高学年から目標（計画）は自分で作らせる。
- ③短期でクリアできそうな目標。難しいより易しいもの。増やすより減らす。
- ④親が肯定的であること。

### (2) 実行する。

- ①机に向かわせるためのちょっとした工夫。事前の指示。すき間時間、ストップウォッチの活用。
- ②親が教えてもらう時間を作る。ミニホワイトボードはあると便利。
- ③リビング、ダイニングで勉強する。
  - ・姿勢の重要性。
- ④勉強のスタートはパズル系の問題から。

### (3) 結果が出る。

- ①30点のテスト、100点のテストへの反応の仕方。
  - ・できなかった理由ではなくできた理由を聞いてあげる。  
「どうしてできなかったの？」⇒「それはどうしてできたの？」
- ②早いことだけをほめない。「早く終わってえらいね。」⇒「集中してできたね。」
  - ・本当は時間よりも中身をほめてもらうほうがうれしい。
- ③ちょっとした変化、成長の芽を見つけたら、そこがチャンス。
- ④最初は報酬ありでもいい。本当にやる気になれば報酬を求めなくなる。
- ⑤高学年ではPDCAサイクルを回せるようにすることが目標。
  - ・「やり直しをしてみた？」⇒していたら大げさにほめる。

### (4) 学習面以外で大切なこと。

- ①ご飯を食べる。運動をする。睡眠をとる。
- ②ストレスから解放されている。
  - ・親からのプレッシャー。やることが多すぎる。親もストレスフリーを目指す。
- ③学びも生活の一部。まずは生活面で自分のことは自分でさせる。
  - ・忘れ物がなくなると成績が上がるって本当なのか。
- ④家庭でのコミュニケーションの時間を大切にする。
  - ・食事の時間は、テレビは消す、スマホはいじらない。
  - ・人間は知っている言葉でしか考えることができない。聞く力、話す力がある子はやる気が出やすい。
  - ・登山のすすめ。
- ⑤失敗してはいけないと思いついでいる。すぐに消しゴムで消す子。
- ⑥親から信用されている、期待されていると思ったら、いつかがんばる時が来る。言葉にしてあげる。

## 3 親も心得ておきたい自学を支える「正しい学習観」。

- (1) 答えだけが合っても意味がない。
- (2) わかったつもり、わかったふりをしない。
  - ・同じ偏差値でも開成に受かる子と受からない子の違い。
- (3) できないことをできるようにすることが勉強。

## 第2回 家庭教育学級を振り返って

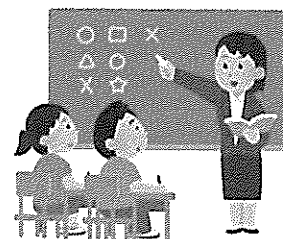
家庭教育学級長 市瀬 / 副家庭教育学級 荒木

10月21日(金)に第2回家庭教育学級が開催されました。テーマは『小学生をやる気にさせるためには』で、講師として松島伸浩様(花まるグループ スクールFC 代表)、来賓として世田谷区教育委員会 社会教育指導員の杉本様をお招き致しました。当日は松原小学校内及び校外から総勢48名のご参加を頂き、本テーマに対する関心の高さを実感する会となりました。ご講演頂いた内容を一部ですがご紹介します。

### やる気の正体

○やる気があるとは自立しているということ。具体的には、次のような状態のこと

- ①もくもくと取り組んでいる
- ②自分の意志でやっている
- ③ちょっとくらい失敗してもあきらめない
- ④継続してやっている



○女の子は自立が早くコツコツ頑張れる。男の子はその日ぐらしたが、本気になると伸び幅がすごい。

ただし、本気になるのは目標が近く(半年位)なってから

○やる気の仕組み



○自信がない子、基礎的な知識が不足している子、勉強のやり方がわからない子、やらされている子、目標が定まっていない子はやる気が出ない

○「勉強はなんのためにやるの?」という子供の質問に対する答えは、小学生にはシンプルに「勉強は唯一頭をよくする方法だよ」、中学生には社会と繋がりたい意識を利用して「高卒と大卒では生涯年収が1億円違う。宝くじは当たる確率が低い、頑張って大学に行けば1億円生涯年収が増える。」と説明する

### やる気を引き出すために家庭でできること

○目標を立てる

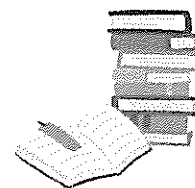
- ①高学年では自分で目標をたてさせる。
- ②目標は、短期で、少し頑張ればクリアできる程度のものを細かく設定するのがよい

○実行する

- ①すき間時間やストップウォッチを活用して、短い時間に集中して勉強をする経験をさせる
- ②子供は教えたがりなので、親が教えてもらう時間を作る(自分はわかるのにお母さんがわからない方が嬉しい)
- ③勉強内容の理解の深さ→自分でやるく質問するく人に教えるく人前で説明するく問題を作る

○結果が出る

- ①早く終わったことや点数ではなく、やるべきことをやったということを褒める
- ②高学年ではPDCAサイクルを回せることが目標(Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善))。問題の直し直し・やり直しが大事



### 講義を聞いての感想(アンケートの回答より一部紹介)

- 子供のやる気を引き出す方法を具体的にお話しして下さった
- 子供の自立を邪魔する親になっていることに気付かされました
- 子供の勉強の仕方に悩むことが多かったので大変参考になりました
- 男女の違いや生活に密着した内容で、すぐに役立つお話が聞けてよかったです

ご参加して頂きました皆さま、有難うございました。

